

うなぎの輸入



令和6年7月18日
東京税関

★生きたうなぎは成田空港がシェアトップ！

★うなぎ調製品は東京港がシェアトップ！

★数量のうち、生きたうなぎの89.4%、調製品の99.6%が中国からの輸入！

はじめに

夏になると滋養のあるものを食べて暑い時期を乗り切りたくなります。江戸時代から、うなぎは滋養強壮によりという理由で夏に多く食べられるようになりました。

総務省の家計調査では、うなぎの蒲焼の年間支出金額及び購入数量のデータ（2021年から2023年の平均）からランキングが作成されており、1位は浜松市、2位は京都市、3位は金沢市、4位は名古屋市、5位は東京都区部となっています。このように広く全国で食べられているうなぎですが、なんと2023年は輸入されたうなぎ（生きたうなぎ、うなぎ調製品）のうち、数量の6割強が東京税関管内での取り扱いとなっています。特に、生きたうなぎは成田空港、うなぎ調製品は東京港で最も多く輸入されていることから、特集として取り上げることにしました。

本特集の「うなぎ」は、以下の輸入統計品目番号に属する品目です。

- 生きたうなぎ：0301.92-200（生きているもので、養殖用の稚魚以外のもの）
- うなぎ調製品：1604.17-000（調製し又は保存に適する処理をしたもの）

※2023年分は確々報値、2024年5月分は9桁速報値です。



【年別輸入動向】

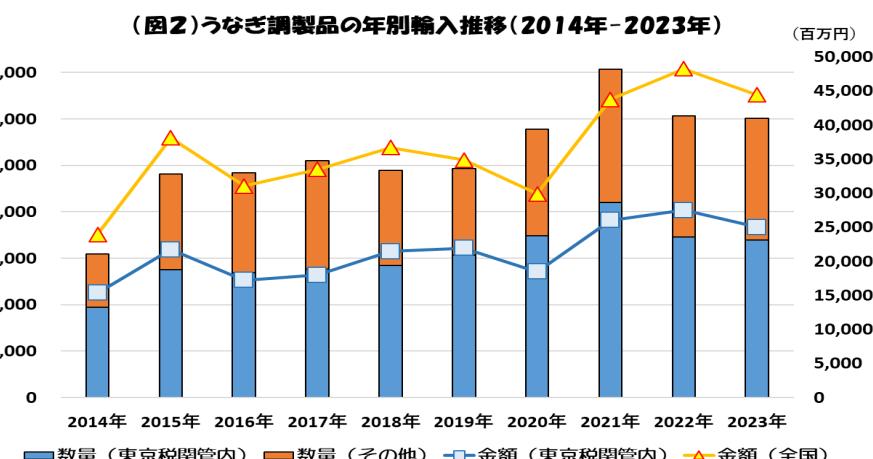
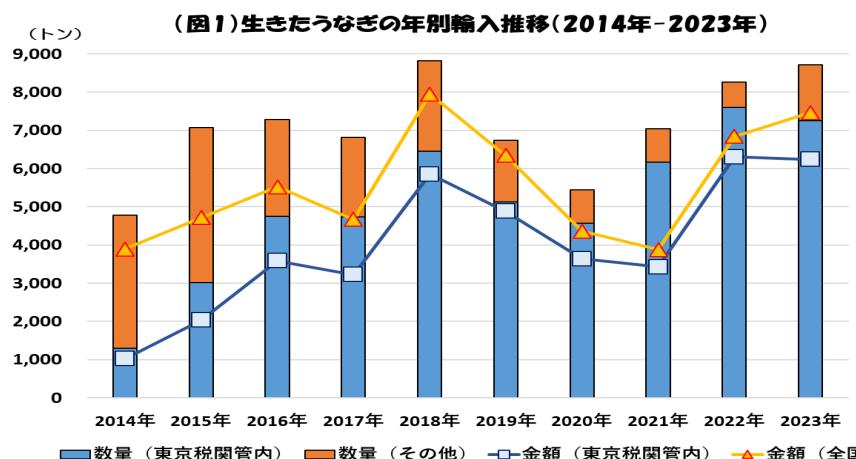
図1は、2014年から10年間の生きたうなぎの年別輸入動向です。

生きたうなぎの全国の輸入数量は2018年に8,813トンとなりました。その後は減少に転じ、2020年にはコロナ禍によるうなぎ専門店の休業・時短営業や外出自粛などの影響により5,441トンに落ち込んだものの、2021年以降はうなぎ専門店の通常営業の再開やうなぎの稚魚であるシラスウナギの豊漁などにより順調に回復し、2023年は8,720トンと2020年と比較して、約60%増加しました。直近10年における全国に占める東京税関管内の生きたうなぎの輸入数量割合は2022年が92.2%で最も増加し、2023年も83.6%を占めています。業界によりますと、2022年は、コロナ禍により、各地方空港において航空機の貨物便を減便したため成田空港の利用需要が高まり、東京税関管内の輸入数量割合が増加したことです。

図2は、2014年から10年間のうなぎ調製品の年別輸入動向です。

うなぎ調製品の全国の輸入数量は2021年に21,199トンとなり、2014年から2023年の間で最も増加しました。その後は減少したものの、2023年は18,018トンとなり、2014年と比較すると約2倍に増加しました。

うなぎの輸入数量、輸入価格はシラスウナギの漁獲量により変化します。シラスウナギの漁獲量に左右されず、安定してうなぎを市場に供給できるよう大学などの研究機関では完全養殖の研究が行われていますが、育成コストが掛かるため、まだ完全養殖の商業化をすることは難しいようです。そのため、現状では、うなぎの市場への供給については漁獲したシラスウナギを養殖するしかなく、その年のシラスウナギの漁獲量がうなぎの輸入数量、輸入価格に大きく影響を与えています。シラスウナギは「白いダイヤ」とも言われ、以前は漁獲量によってはグラム単位価格で金の価格に迫るほど高騰したこともあるそうです。



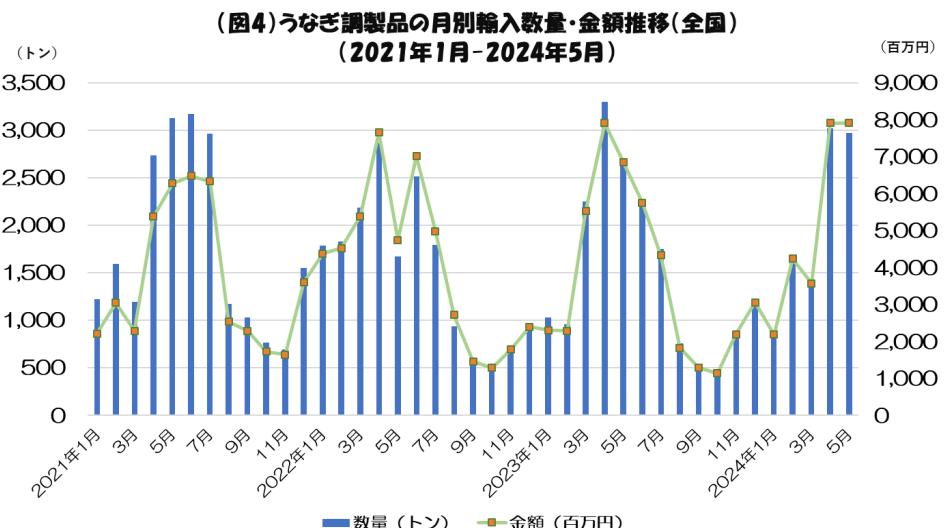
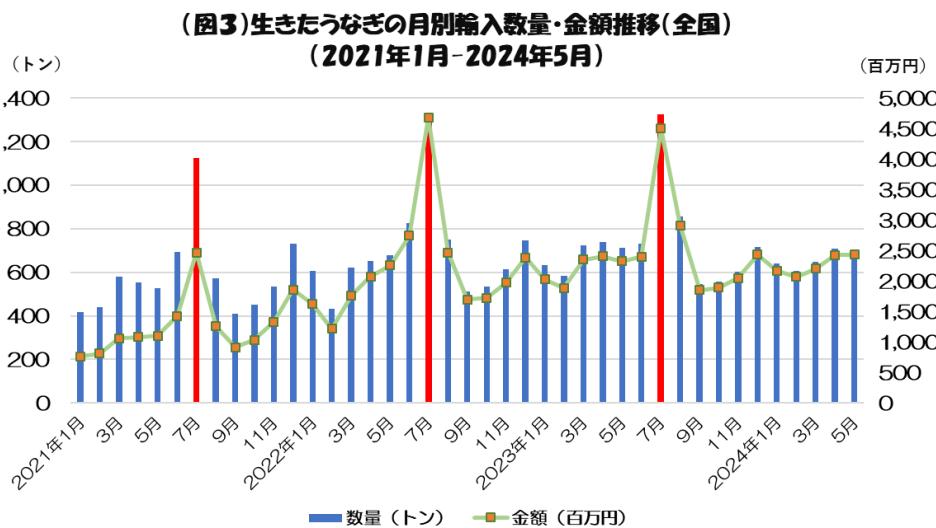
【月別輸入動向】

図3は2021年1月から2024年5月の生きたうなぎの全国の月別輸入数量の推移です。

生きたうなぎの輸入数量は7月に突出して多くなっており、2021年から2023年までの各年の7月の輸入数量はそれぞれ1,124トン、1,298トン、1,323トンになります。これは、他の月平均（2021年1月から2023年12月のうち、各年7月を除く）の2倍近くの数量となっています。総務省が公表している、品目別支出金額の家計調査では2022年7月の「うなぎの蒲焼」に対する1世帯当たりの支出金額は989円で、他の月平均（2022年1月から12月のうち、7月を除く）の145円より6倍以上も高い支出金額となっており、7月が国内需要期であることが分かります。これは、図3の生きたうなぎの月別輸入数量推移も総務省家計調査と同様の傾向になっていることから、生きたうなぎは国内需要期に輸入されていることが分かります。生きたうなぎが国内需要期に輸入されている理由について、業界によりますと、生きたうなぎを7月の需要期まで長期間にわたり消費地などに置いておくことは、うなぎが痩せる、死亡するなどのリスクがあり、それを避けるため、土用の丑の日の時期に輸入数量が増加しているとのことです。

図4は2021年1月から2024年5月の全国のうなぎ調製品の月別輸入数量の推移です。

うなぎ調製品は4月から輸入数量が多くなり、2024年4月の輸入数量は3,022トンになります。業界によりますと、うなぎ調製品については生きたうなぎより長く保存が出来ることもあり、土用の丑の日の数か月前、春ごろから冷凍コンテナによる輸入が増加するそうです。



【国(地域)別輸入動向】

【生きたうなぎ】

図5、6は生きたうなぎの2023年における輸入数量と輸入金額の国(地域)別シェアです。どちらも、中国が約89%の割合を占めており、2番目に多い台湾の約10%を大きく上回っています。

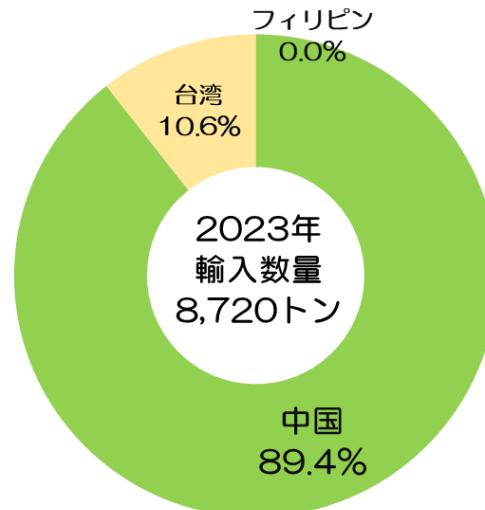
業界によると近年、中国のうなぎ養殖場では設備投資が盛んに行われており、広い土地を利用した大規模な屋内養殖施設を建て、大きな池で育てるなど、うなぎのストレスが少ない環境を整えているそうです。

【うなぎ調製品】

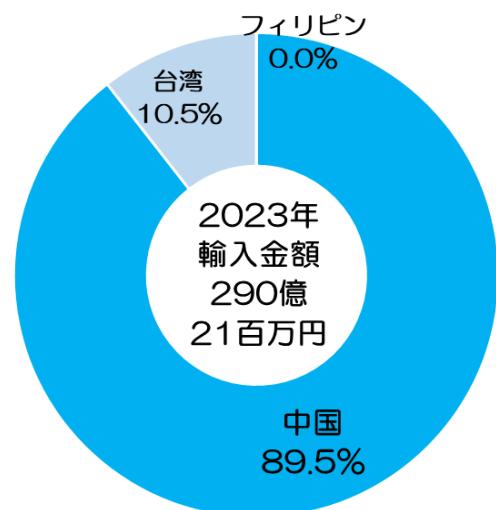
図7、8はうなぎ調製品の2023年における輸入数量と輸入金額の国(地域)別シェアです。どちらも、中国からの輸入割合が約99%となっており、輸入数量、輸入金額のほとんどを占めています。

業界によると、中国には、うなぎ加工製造工場があり、中国国内で養殖から加工まで完全生産を行っているそうです。また、中国のうなぎ養殖場は主に広東省、福建省にあるそうです。

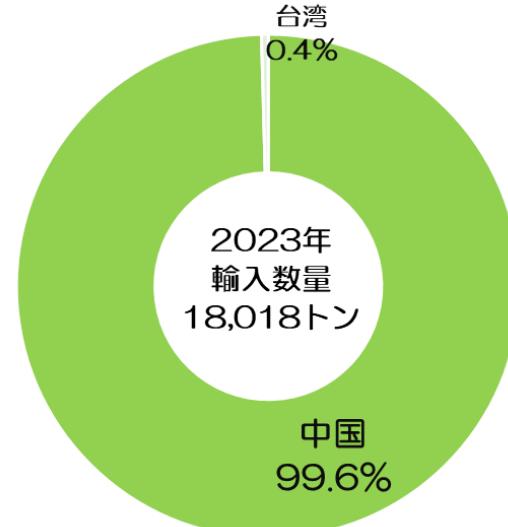
(図5)生きたうなぎの国(地域)別輸入数量シェア



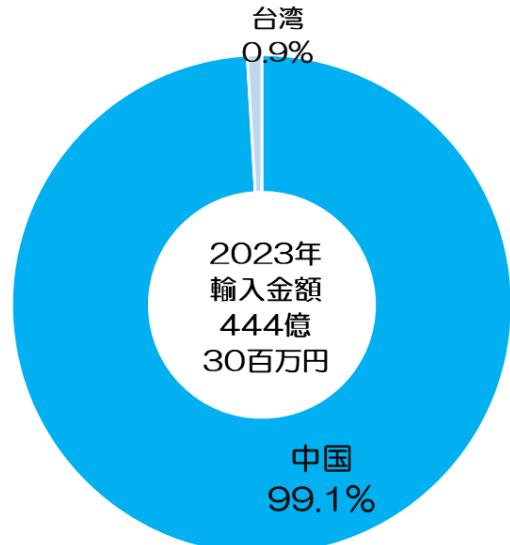
(図6)生きたうなぎの国(地域)別輸入金額シェア



(図7)うなぎ調製品の国(地域)別輸入数量シェア



(図8)うなぎ調製品の国(地域)別輸入金額シェア



【港別輸入動向】

【生きたうなぎ】

図9、10は生きたうなぎの2023年における輸入数量と輸入金額の港別シェアです。どちらも成田空港が全国の約81%の割合を占めて首位となっています。

業界によりますと、輸入される生きたうなぎは各消費地に卸すまでの間、「産地問屋」にて体力を回復させるそうです。産地問屋とは東京周辺や静岡県などにある、消費地へ輸送するまでの中継地点となる問屋のことです。そのため、産地問屋と距離が近い成田空港の港別輸入数量シェアが高くなっているそうです。

また、4ページの国（地域）別輸入動向より、生きたうなぎの89.4%が中国から輸入されていることを示しましたが、業界によりますと、中国のうなぎは、各養殖場から上海にある池に輸送され、そこで梱包したのち、上海空港から日本に向けて航空機で輸送されるそうです。そのため、上海空港と貨物機の発着便数の多い空港が利用される傾向にあり、成田空港は他空港と比べて発着便数が多いことから、港別輸入数量シェアが高いそうです。

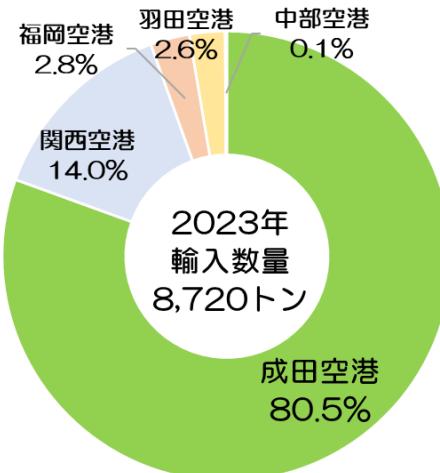
【うなぎ調製品】

図11、12はうなぎ調製品の2023年における輸入数量と輸入金額の港別シェアです。どちらも、東京港が全国の約56%の割合を占めて首位となっています。

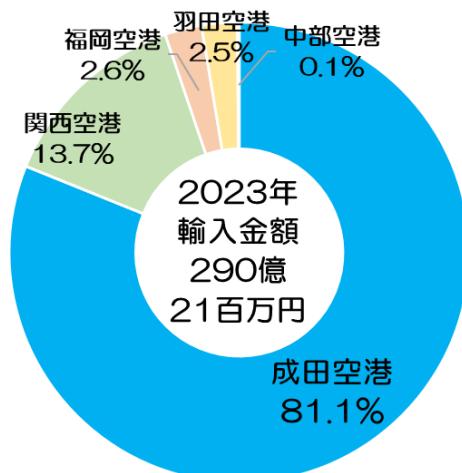
業界によりますと、東京港は大規模なコンテナ船が入港できること、全国へ輸送するための物流面での利便性があることから輸入港として選ばれているそうです。

近年、首都圏では国際港と直結する大都市圏環状道路の整備により、物流を効率化させる政策が進められています。このことから、東京港は利便性がさらに高くなり、今後もより多くの輸入者に輸入港として選ばれることが考えられます。

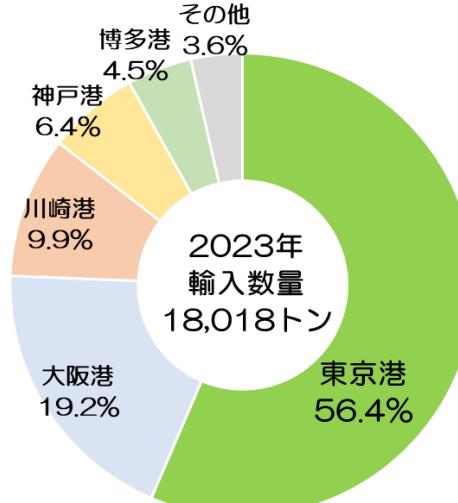
(図9)生きたうなぎの港別
輸入数量シェア



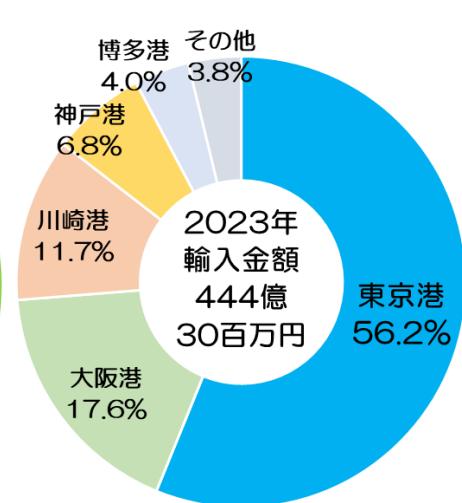
(図10)生きたうなぎの港別
輸入金額シェア



(図11)うなぎ調製品の港別
輸入数量シェア



(図12)うなぎ調製品の港別
輸入金額シェア



【コラム】成田うなぎ祭り

古くから成田地域では、印旛沼（いんばぬま）で獲られたうなぎが食べられていました。その食文化が成田地域に定着したのち、元禄時代になると江戸から比較的容易に行ける行楽地となった成田では成田詣の参詣客にうなぎが振舞われるようになり、次第にそれは成田地域の名物となりました。今でも成田駅から成田山新勝寺までの約800メートルにわたる参道にはうなぎを味わうことが出来る料理店が数多くあります。

このように、うなぎが名物である成田地域では毎年、「成田うなぎ祭り」という催し物が夏の土用の丑の日にあわせて開催されています。例年、約100店舗が参加し、多くの飲食店でうなぎを使った料理を味わうことが出来ます。

また、平成27年からは成田うなぎ祭りの初日にあたる日には成田山新勝寺の協力のもと、うなぎ供養が行われています。

今年の成田うなぎ祭りは7月12日（金）から8月28日（水）の48日間にわたり開催されます。

「FEEL成田 成田市観光協会公式サイト」ホームページ（https://www.nrtk.jp/enjoy/attraction/narita_eel.html）

「成田山新勝寺」ホームページ（<https://www.naritasan.or.jp/2019/07/12/12974/>）



【コラム】世界のうなぎ料理

うなぎといえば、日本では蒲焼にして醤油とみりんを使ったタレを付けて食べるのが一般的です。

しかし、世界では蒲焼以外の様々な調理方法でうなぎが食べられています。今回はその中から、世界のうなぎ料理をいくつかご紹介します。

【中国】鍋焼河鰻

内臓を取り、一度蒸したあと醤油で煮て食べる。北部ではあまり食べず、沿岸部で広く食べられている。ほかにも中国では、麺類のダシに用いることもある。

【アメリカ】うなぎと牡蠣のパイ

うなぎ（皮を剥きいくつかに切る）、塩コショウ、ナツメグなどをパイ生地に乗せて、その上に牡蠣を乗せて全体を覆う。白ワインをふりかけ、パイ生地で蓋をしてオーブンで焼く。

【イギリス】うなぎのゼリー寄せ

うなぎ（2.5センチ幅に切る）、月桂樹の葉、レモン汁を鍋に入れ、塩水を注ぐ。弱火で二時間煮込んだ後、できるだけ短時間で冷やす。冷えるにつれて、液体部分がゼリー状に固まる。酢をかけて食べる。

【コラム】土用の丑の日について

2024年の夏は土用の丑の日が2回（7月24日と8月5日）あるのはご存じでしょうか。

1回のみの年もあれば、2回ある年もあり、日にちも年によってバラバラです。一体、どのようにして土用の丑の日は決められているのでしょうか。

【土用とは？】

年に4回訪れる季節の節目（立春、立夏、立秋、立冬）の前の約18日間のこと、今年の夏の「土用」は7月19日から8月6日になります。

【丑の日とは？】

昔の暦では干支を循環させて日ごとに割り当てていました。そのため12日に一度「丑の日」がやってきます。

日	月	火	水	木	金	土
7/14 卯	15 辰	16 巳	17 午	18 未	19 申	20 酉
21 戌	22 亥	23 子	24 丑	25 寅	26 卯	27 辰
28 巳	29 午	30 未	31 申	8/1 酉	2 戌	3 亥
4 子	5 丑	6 寅	7 卯	8 辰	9 巳	10 午

上記のように「土用」と「丑の日」が重なる日を土用の丑の日といいます。以上のことから、土用の丑の日が1回の年もあれば、2回の年もあり、また、日にちも年によってバラバラになるのです。

おわりに

業界によりますと、近年は訪日外国人観光客の増加により観光地のうなぎ専門店などではうなぎの需要が伸びているそうです。そのため、今後もうなぎの輸入については利便性の高い成田空港と東京港の利用が港全体で大きな割合を占めるのではないかとのことです。

資料編

輸入統計品目番号は以下参照（各表共通）

・生きたうなぎ：0301.92-200 うなぎ調製品：1604.17-000

生きたうなぎ 国・地域別数量・金額（2023年）

国・地域	輸入数量（トン）	輸入数量シェア（%）
中国	7,795	89.4%
台湾	925	10.6%
フィリピン	0	0.0%
合計	8,720	100.0%

国・地域	輸入金額（百万円）	輸入金額シェア（%）
中国	25,961	89.5%
台湾	3,059	10.5%
フィリピン	1	0.0%
合計	29,021	100.0%

生きたうなぎ 港別数量・金額（2023年）

港	輸入数量（トン）	輸入数量シェア（%）
成田空港	7,022	80.5%
関西空港	1,219	14.0%
福岡空港	246	2.8%
羽田空港	223	2.6%
中部空港	11	0.1%
合計	8,720	100.0%

港	輸入金額（百万円）	輸入金額シェア（%）
成田空港	23,540	81.1%
関西空港	3,966	13.7%
福岡空港	751	2.6%
羽田空港	728	2.5%
中部空港	36	0.1%
合計	29,021	100.0%

全国 年別輸入数量・金額の推移 (2014年-2023年)

年	生きたうなぎ				うなぎ調製品				
	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)		輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)		輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	
		前年比	前年比		前年比	前年比		前年比	前年比
2014年	4,781	99.8%	15,152	84.7%	9,260	114.6%	23,956	100.5%	
2015年	7,067	147.8%	18,348	121.1%	14,454	156.1%	38,103	159.1%	
2016年	7,276	103.0%	21,477	117.1%	14,516	100.4%	31,054	81.5%	
2017年	6,816	93.7%	18,173	84.6%	15,287	105.3%	33,480	107.8%	
2018年	8,813	129.3%	30,914	170.1%	14,654	95.9%	36,690	109.6%	
2019年	6,733	76.4%	24,664	79.8%	14,806	101.0%	34,897	95.1%	
2020年	5,441	80.8%	16,963	68.8%	17,341	117.1%	29,884	85.6%	
2021年	7,034	129.3%	15,088	88.9%	21,199	122.2%	43,764	146.4%	
2022年	8,267	117.5%	26,592	176.2%	18,188	85.8%	48,269	110.3%	
2023年	8,720	105.5%	29,021	109.1%	18,018	99.1%	44,430	92.0%	

うなぎ調製品 港別数量・金額 (2023年)

港	輸入数量 (トン)	輸入数量 シェア (%)
東京港	10,168	56.4%
大阪港	3,460	19.2%
川崎港	1,780	9.9%
神戸港	1,150	6.4%
博多港	813	4.5%
その他	647	3.6%
合計	18,018	100.0%

うなぎ調製品 国・地域別数量・金額 (2023年)

国・地域	輸入数量 (トン)	輸入数量 シェア (%)
中国	17,941	99.6%
台湾	78	0.4%
合計	18,018	100.0%

港	輸入金額 (百万円)	輸入金額 シェア (%)
東京港	24,954	56.2%
大阪港	7,805	17.6%
川崎港	5,209	11.7%
神戸港	3,017	6.8%
博多港	1,757	4.0%
その他	1,688	3.8%
合計	44,430	100.0%

東京税関管内 年別輸入数量・金額の推移 (2014年-2023年)

年	生きたうなぎ				うなぎ調製品				生きたうなぎ・うなぎ調製品			
	輸入数量 (トン)	輸入数量 全国比	輸入金額 (百万円)	輸入金額 全国比	輸入数量 (トン)	輸入数量 全国比	輸入金額 (百万円)	輸入金額 全国比	輸入数量 (トン)	輸入数量 全国比	輸入金額 (百万円)	輸入金額 全国比
2014年	1,295	27.1%	3,988	26.3%	5,822	62.9%	15,349	64.1%	7,118	50.7%	19,337	49.4%
2015年	3,019	42.7%	7,916	43.1%	8,273	57.2%	21,730	57.0%	11,292	52.5%	29,646	52.5%
2016年	4,753	65.3%	13,940	64.9%	8,068	55.6%	17,246	55.5%	12,820	58.8%	31,186	59.4%
2017年	4,728	69.4%	12,534	69.0%	8,283	54.2%	17,981	53.7%	13,011	58.9%	30,516	59.1%
2018年	6,451	73.2%	22,750	73.6%	8,522	58.2%	21,450	58.5%	14,973	63.8%	44,200	65.4%
2019年	5,126	76.1%	18,981	77.0%	9,211	62.2%	21,928	62.8%	14,337	66.6%	40,909	68.7%
2020年	4,565	83.9%	14,155	83.4%	10,438	60.2%	18,490	61.9%	15,003	65.9%	32,645	69.7%
2021年	6,168	87.7%	13,318	88.3%	12,608	59.5%	26,053	59.5%	18,776	66.5%	39,371	66.9%
2022年	7,604	92.0%	24,516	92.2%	10,352	56.9%	27,502	57.0%	17,956	67.9%	52,018	69.5%
2023年	7,244	83.1%	24,268	83.6%	10,184	56.5%	25,001	56.3%	17,428	65.2%	49,269	67.1%

生きたうなぎ 月別輸入数量・輸入金額の推移（全国）
(2021年1月-2024年5月)

年	2021年		2022年		2023年		2024年	
月	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)
1月	416	763	605	1,620	632	2,028	639	2,170
2月	440	808	431	1,219	583	1,881	606	2,066
3月	578	1,064	621	1,765	724	2,352	646	2,200
4月	552	1,081	652	2,073	740	2,408	710	2,426
5月	528	1,099	678	2,257	713	2,321	713	2,431
6月	693	1,423	827	2,742	732	2,399		
7月	1,124	2,464	1,298	4,677	1,323	4,501		
8月	573	1,257	751	2,464	855	2,912		
9月	411	911	513	1,696	545	1,851		
10月	450	1,033	533	1,726	556	1,892		
11月	535	1,329	613	1,970	601	2,046		
12月	733	1,857	745	2,383	715	2,430		

取材協力： 日本鰻輸入組合

参考：「ウナギと日本人“白いダイヤ”のむかしと今」河出書房新社
「ウナギのふしげ 驚き！世界の鰻食文化」日本経済新聞社

総務省 家計調査（二人以上の世帯）品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング（2021年（令和3年）～2023年（令和5年）平均）

総務省 家計調査（品目分類）第5表 1世帯当たりの品目別支出金額、購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）

うなぎ調製品 月別輸入数量・輸入金額の推移（全国）
(2021年1月-2024年5月)

年	2021年		2022年		2023年		2024年	
月	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)	輸入数量 (トン)	輸入金額 (百万円)
1月	1,218	2,210	1,786	4,372	1,030	2,297	890	2,180
2月	1,589	3,047	1,829	4,522	958	2,285	1,625	4,237
3月	1,194	2,280	2,184	5,385	2,252	5,530	1,425	3,568
4月	2,735	5,376	2,865	7,649	3,297	7,903	3,022	7,911
5月	3,130	6,278	1,670	4,737	2,686	6,852	2,966	7,905
6月	3,166	6,478	2,512	7,006	2,228	5,755		
7月	2,961	6,330	1,791	4,982	1,750	4,329		
8月	1,171	2,527	937	2,714	757	1,824		
9月	1,027	2,281	528	1,453	521	1,288		
10月	766	1,723	459	1,279	439	1,130		
11月	695	1,641	669	1,777	872	2,188		
12月	1,548	3,591	956	2,393	1,229	3,049		

総務省家計調査（二人以上の世帯）うなぎの蒲焼の品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング（2021年～2023年平均）より抜粋

順位	都市名	金額（円）
1	浜松市	5,149
2	京都市	4,504
3	金沢市	3,369
4	名古屋市	3,316
5	東京都区部	3,281
	全国平均	2,637

総務省家計調査（品目分類）第5表 1世帯当たりのうなぎの蒲焼の品目別支出金額、購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）より抜粋

年月	支出金額 (円)	年月	支出金額 (円)	年月	支出金額 (円)
2020年1月	76	2021年1月	118	2022年1月	104
2月	71	2月	134	2月	107
3月	103	3月	168	3月	139
4月	127	4月	166	4月	144
5月	179	5月	188	5月	146
6月	263	6月	288	6月	211
7月	965	7月	980	7月	989
8月	383	8月	278	8月	294
9月	143	9月	158	9月	140
10月	101	10月	133	10月	101
11月	114	11月	103	11月	91
12月	160	12月	145	12月	114

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 貨物合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>